

国立病院機構熊本医療センター

No.189



くまびょう NEWS

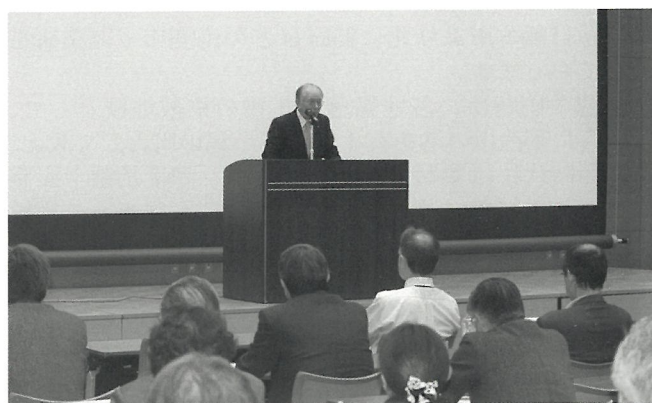
NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

平成24年度 第2回(通算34回) 開放型病院連絡会が開催されました

平成25年2月16日(土曜日)18時30分より当院2階研修センターホールにて平成24年度第2回開放型病院連絡会が開催されました。開始にあたり、河野院長が参加の皆様にお礼を述べた後、熊本型ドクターヘリの運航状況、電子カルテの更新、それに伴う外来サービスの向上などを報告致しました。続いて、開放型病院運営協議会委員長で熊本市医師会長の福島敬祐先生にご挨拶頂き全体会議に移りました。全体会議では、症例呈示として岡本 実心臓血管外科部長から「麻薬常用者における感染性心内膜炎の1例」を、藤本和輝循環器内科部長から「ドクターヘリで搬送し救命できた左主幹部急性心筋梗塞の1例」を提示しました。病院からの連絡事項として片淵 茂統括診療部長より「インターネットによる地域連携システムについて」の説明を行いました。最後に熊本市歯科医師会長の清村正弥先生にご挨拶を頂き全体会議を終了致しました。

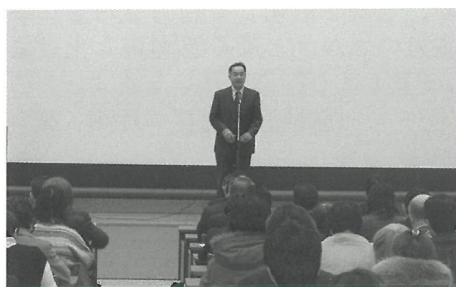
続いて熊本市医師会理事の家村昭日朗先生に座長の労をおとり頂き、厚生労働省医政局総務課保健医療技術調整官の佐々木孝治先生による特別講演「今後の医療提供体制のあり方について」が行われました。講演では、今後、機能分化が促進されること、在宅医療推進が継続されること、復興・経済政策が優先度高い状況のなかで人件費などのソフト面の充



熊本市医師会長 福島敬祐先生のご挨拶

当が進むこと、今後の経済状態によっては予想されることなどの説明があり、最後に今後の地域医療支援病院の現状とあり方についても検討が行われているとのお話がありました。開放型病院登録医の先生方をはじめスタッフの方々の多数のご参加を頂きホールは満席となり大変有意義な連絡会を開催することができました。

今後、病診・病病連携がさらに充実致しますよう登録医の先生方のご指導・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。(副院長 野村 一俊)



熊本市歯科医師会長 清村正弥先生のご挨拶



佐々木孝治先生による特別講演



満席となった開放型病院連絡会の様子

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営



「山鹿より」

三森循環器科呼吸器科病院

院長 三森 史朗

私は熊本市より北に25kmほどの山鹿市で開業医をしております。

昔の山鹿は、各地集落の産物の集散地域として、さらに菊池川の港を有する市場と湯の町として栄え、江戸時代には参勤交代の道となる「豊前街道」が整備されて、熊本藩・人吉藩・薩摩藩が往来する宿場町であり、明治時代には熊本市に次いで熊本県内2番目の大きな町だったそうです。

私の幼少時にも商店街は賑わい、たくさんの人も住んでおられましたが、最近では多くの地方都市の例に漏れず、人口も減少し高齢化率も高く、シャッターのしまったお店も目立つようになっています。

しかし山鹿の内外の方々の努力により八千代座や桜湯のオープンなどで休日の昼は観光客の姿も多くなったように感じるようになってきております。

山鹿の温泉は石鹸で洗ったあと流してもぬるぬるがとれず、石鹸成分が残ったような印象で幼少時は

きもちがわるかったのですが、それが弱アルカリ泉の特徴で美人湯といわれております。また温度も比較的低温に負担の少ない42℃以下が多いようです。いいことづくめの山鹿温泉ですがやはり入浴前後や入浴中に事故や病気を発症される方も少なくありません。旅行者のことも多く重症のこともあります。さらに夜間や休日のことが多く、一開業医には対応が難しいことが少なくありません。このようなときにも熊本医療センターの皆様には大変お世話になっており、急患も受け入れていただいております。本当に心強く感謝しております。最近では心臓血管系などの重症患者はヘリコプターでの転院もさせていただくようになりさらに処置治療も早くしていただけるようになりました。

救急のときは25kmという距離がものすごく長く感じます。

私たちの医療機関だけでなく、安心した観光や居住がかなっているのはやはり熊本医療センターの皆様があればこそ深く感謝しております。

今後ともよろしくお願い申し上げます。



平成24年地域医療支援病院運営委員会開催されました

平成24年度の国立病院機構熊本医療センター地域医療支援病院運営委員会が平成25年1月18日午後4時より当センター会議室で開催されました。協議会の委員は委員長熊本市医師会会長福島敬祐先生、熊本県健康福祉部健康局長牧野俊彦様、熊本市保健所長大塚博史先生、熊本大学大学院生命科学研究部長竹屋元裕先生、熊本市歯科医師会会長清村正弥先生、熊本市薬剤師会会長村瀬元治先生がご出席いただきました。河野院長より開会の挨拶の後、福島委員長よりご挨拶をいただき直ちに議事に移り、事務局より①紹介率、逆紹介率、②共同診療実績、③救急医療提供実績、④地域医療従事者の資質向上を図るための研修実績などを報告しました。紹介率は本年度（4月～12月）82%と80%以上を維持しており、また逆紹介率も77.7%と、増加傾向にあります。平成23年度の救急患者は19358人、救急車受入件数は8476件、地域医療研修センターの研修実績は18832人であることを報告し、委員の先生方にもご満足頂ける内

容と評価して頂きました。

地域医療支援病院として承認を受け、すでに10年が経過しました。これはひとえに開放型病院登録医の先生方をはじめ、当院を信頼して患者さんをご紹介頂いている先生方のおかげと深く感謝申し上げます。今後ともどうぞ宜しくご指導お願いします。

（統括診療部長 片渕 茂）



運営委員会の様子

外来紹介

眼科・耳鼻咽喉科



感覚器外来クラークと

眼科外来は月・水・金の午前中は一般診療、午後からレーザー治療や視野検査といった特殊な治療及び検査、また手術に臨まれる患者様の術前診察を行っています。

火・木は手術日ですが、救急疾患に関しては救急外来と連携をはかり対応に当たっています。

一般診療では糖尿病性網膜症の精査をはじめ、ベージェット病、多発性硬化症、スティーブンスジョンソン症候群など他科的疾患の鑑別の一端を担うことも多く、全身状態と併せた診療を目指しています。

手術に関しては白内障手術（約400例/年間）の他、硝子体手術・眼瞼下垂、涙嚢鼻腔吻合術など多岐に渡り行っています。

また、昨年秋、熊本県下の総合病院としては熊本大学病院に続き、新たにOCT（光干渉断層計）が導入されました。これにより詳細な網膜の断面構造を得ることができ、黄斑浮腫・黄斑円孔・網膜剥離などの診断の有用性を高めることになりました。

これからもご紹介いただきました患者様に安心と確実さをご提供できますようにスタッフ一同取り組んで参りたいと思います。今後ともよろしくお願いたします。（眼科外来看護師 大橋 朱佳）



眼科医師



眼科外来スタッフ



眼科近藤部長の診察の様子

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域は、人間の日常生活に深く関わる機能を有する器官や臓器を取り扱う重要な診療科です。

耳鼻咽喉科領域全般を扱っていますが、手術例を中心に診察を進めています。

眼科や歯科口腔外科とは、同領域の手術を共同で行う例もあります。

また、突発性難聴、顔面神経麻痺、眩暈等の入院治療を要する症例も可能な限り対応しています。



耳鼻科上村医長の診察の様子

当科では週二回と限られた

担当日に2名の専門医と看護師、Dr.クラークで連携しながら精一杯ご紹介頂いた患者様を優先し診察を行っております。

耳鼻咽喉科領域の疾患は、症状が突発的に発生するものから、環境の変化等が引き金になって起こるもの、症状も一時的なものから長期間かかるなど多岐に渡ります。

治療によっては、突然声を失うなど、身体的・精神的苦痛が強く周囲には理解されにくい疾患を多く扱うのも当科の特徴です。

患者様や家族の身になり支えていけるよう、上村医長と共に患者中心の医療を提供出来るよう心がけています。（耳鼻咽喉科外来看護師 山下 彩子）



耳鼻咽喉科外来スタッフ

2013 診療科紹介 (58)

脳神経外科



部長
大塚 忠弘
脳血管障害・頭部外傷
脳腫瘍
日本脳神経外科学会専門医、指導医



医長
吉里 公夫
脳血管障害・頭部外傷
脳腫瘍
日本脳神経外科学会専門医、指導医
日本脳卒中学会専門医

診療内容と特色

脳神経外科は平成6年に開設され、平成9年には日本脳神経外科学会専門医教育認定施設となり、研修指導を行っております。平成17年度からは日本脳卒中学会専門医認定教育施設に認定され、脳卒中診療に更に力を注いでおります。

平成21年4月には、脳神経外科手術用の最新式顕微鏡（三鷹光器社製MM80）が導入され、また、同年10月の病院新築に伴い専用の手術室も整備されました。顕微鏡手術の快適性・高機能性が担保され、手術成績の向上に繋がるよう益々努力して参ります。また、新しく術中のICG蛍光血管撮影装置（三鷹光器社製F-light 300）や術中の誘発筋電図（MEP、日本光電）も整備されましたので、顕微鏡手術の安全性・確実性は更に向上するものと思っております。現在スタッフは3名ですが、豊富な入院患者数および手術実績を背景に、満足のいく治療成績を提供できるものと思っております。一方、手術症例に限られる昨今、若い医師にとってマイクロサージェリーに対する訓練は大変重要となってきました。当科では、微小血管吻合用の手術顕微鏡、機器および内視鏡手術訓練模型を整備しており、トレーニング環境も充実しております。



医師
藤本 健二
脳血管障害・頭部外傷
脳腫瘍

診療実績

病棟は、常時約20人が入院し、平成24年度の入院患者は511人でした。

入院患者の内訳は
脳血管障害……………255人
頭部外傷……………204人
脳腫瘍……………26人

手術数は215件で、主な疾患では、

脳動脈瘤手術……………39件
慢性硬膜下血腫除去術……86件
水頭症手術……………12件
定位的脳内血腫除去術……9件
脳腫瘍……………13件
内頸動脈内膜剥離術……………4件

くも膜下出血(脳動脈瘤破裂)については、急性期に直達手術を優先し、重症意識障害患者についても外減圧術等を併用して積極的に手術対応します。内頸動脈内膜剥離術については、県下で唯一全例内シャント使用下で手術を行い、血行遮断時の脳虚血の予防に努めています。

研究実績

- 急性硬膜下血腫と吸収機転、手術法に関する研究
- 脳動脈瘤手術法に関する研究
- 無症候性微小脳出血（microbleeds）に関する研究：国立病院機構政策医療ネットワーク循環器疾患共同研究（平成17-19年度、主任）、国立病院機構EBM推進のための大規模臨床研究（平成20-23年度、主任）

ご案内

頭部CTやMRI所見については、電話やメール（画像添付）などご遠慮なくご相談下さい。

熊病の歴史

泌尿器科

熊本医療センター泌尿器科の歴史について書く機会をいただきましたので熊本大学や国立熊本病院の歴史も含め報告します。

まず遡ること90年前、熊本大学で大正12年に東京帝国大学より赴任された三宅勇教授により、皮膚泌尿器科教室が新設されました。戦前の医療では皮膚泌尿器疾患は同じ領域とされていたようです。昭和20年に誕生した国立熊本病院においては、熊本大学の榎原憲章先生が昭和21年11月より皮膚泌尿器科の診療を開始され、昭和22年6月に中村家政先生を初代皮膚泌尿器科医長に、その後黄春雄医長、野尻正寿医長、児玉伸二医長と皮膚泌尿器科の時代が続きます。

しかし、戦後医学の進歩発展に伴い全国的に皮膚・泌尿器科の分離独立がすすみます。熊本大学では昭和36年に先の榎原憲章先生を初代泌尿器科教授として独立することとなりました。それに従うように第5代・渡辺敏医長の時代に、当院でも皮膚科・泌尿器科との分離の機運が高まりました。昭和41年新病院の建設にあたり予算申請、外来診察室の確保（一階東端）、新病棟（東3病棟）の決定で昭和42年1月1日をもって皮膚科泌尿器科の分離独立がなされました。その後、昭和42年5月に、初代泌尿器科医長として小林長恭先生が熊大より就任されました。当時、外来は皮膚科と隣りあわせで患者様もよく窓口を間違われていたそうです。また、我々もそうでありましたように泌尿器科外来はボイラー室の真上にあり、床が暖められ夏場などは耐え難い暑さに耐えながら診療されていたのは泌尿器科の伝統？でもあったようです。（平成21年に新病院に移転後はこの長年の苦痛からは解放されました。）小林長恭先生は現在もご健在（大分市 勤務医）で、昨年久しぶりに熊本地方会に参加の折、郷愁に誘われるままに熊病まで足を運ばれたそうですが、以前の建物が無くなり広い駐車スペースになっていること、新

病院が完成したことを知らずに来院されたため、全く浦島太郎状態でしたと後日丁寧なお手紙を頂きました。

その後、昭和44年に川野四郎先生（現熊本市 開業）が着任され、国立病院泌尿器科の礎を築られました。当時、大学教室にも劣らぬ学問的業績を残され、臨床においても膀胱全摘、内視鏡手術、尿路結石治療など、全国的にもランクせしめる診療科として発展していきました。この伝統は鎗水史朗医長（日向市 開業）、上野文麿医長（熊本市）と引き継がれ、平成元年には我々が直接指導を受けた山本敏廣先生が医長に就任されています。山本先生は腹腔鏡下手術を熊本で初めて泌尿器科に導入し、以前からの伝統でもある膀胱癌の手術療法、温存療法など、幅広く泌尿器癌の治療に力を注がれました。約10年間熊本の泌尿器科界をリードされた後、現在宇土市で開業されています。

その後、私の熊大時代の指導医である崎山仁先生が第6代医長に就かれた後、何の因果か私・菊川が平成12年より第7代泌尿器科医長を拝命した次第です。現在まで医局員にも恵まれ、菊池恵楓園より医療協力医として昭和の時代から勤務されている土岐直隆先生を含め、総勢7名の大所帯となっています。これまで膀胱癌を含めた尿路上皮癌の治療では他県からも患者受診があるまでに発展し、特に新膀胱造設術においては全国トップレベルにまで到達することができました。今後も先進的で安全な医療の提供ができるように日々鋭意努力していく所存でございます。

追伸：この原稿を書くにあたり、国立病院泌尿器科が今年開設45年目に当たる事を知りました。可能であれば50年目の節目の年には、OBの先生方をお招きし、お祝いをしたいと考えています。

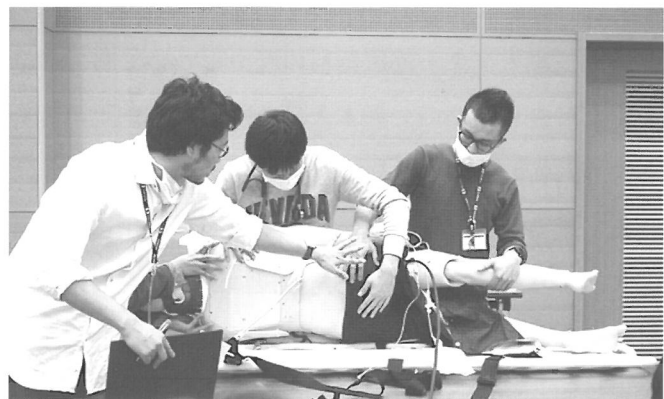
【泌尿器科部長 菊川 浩明】

二の丸外傷トレーニング開催報告

平成25年1月27日、第2回二の丸外傷トレーニングを当院研修センター大ホールにて行いました。

外傷初期診療を学ぶコースとして本邦では、JATEC (Japan Advanced Trauma Evaluation and Care) というものがあります。これは「防ぎ得た外傷死 (Preventable Trauma Death)」の撲滅を目指し、外傷に携わる医師を対象に2003年より全国で開催されているoff the job trainingコースで、当院もこのJATECに準じた外傷トレーニングを昨年より行っています。

今回も受講生20名 (研修医1年目18名、2年目2名) を対象に、日曜日の朝8:30~18:00まで丸一日をかけてトレーニングを行いました。内容は、午前中に5つのskill stationで外傷診療に必要な知識や実技を学び、午後からは様々な外傷のシナリオ (救急車で運ばれてきた出血性ショックや緊張性気胸など) を体験してもらい、午前中に学んだskillや知識を駆使しての模



シミュレーターを使っでの模擬診療の様子

擬診療を行いました。特に今回はJATECのコースで実際に使用するものと同じシミュレーター (模擬診療の人形) を準備することができ、非常に臨場感のある、実臨床さながらのコースを展開することができました。また、受講生以外にも多数の見学者 (医師、看護師、放射線技師など) の参加もあり、非常に大盛況であったと思います。次回は看護師参加型のプログラムを作成し、当院ならではのコース展開ができればと考えております。

外傷診療は時間との勝負であり、かつ多岐に渡る診療科や診療部門の協力がないと患者さんを救うことはできません。当トレーニングが当院の外傷診療のレベルアップにつながるように今後も全員一致団結で頑張りたいと思います。 (外科 松本 克孝)



参加者と記念撮影

平成24年度血液・造血器疾患研修開催報告

今回2月5・6日の2日間、平成24年度血液・造血器疾患研修を開催しました。この研修は、国立病院機構血液・造血器疾患ネットワークの看護部門の研修会です。

北は北海道から南は鹿児島まで国立病院機構の血液造血器疾患に携わる看護師26名が熊本医療センターに集まり看護について学びを深めました。

研修を開催するにあたって、日頃抱えている看護上の問題や患者様ご家族の関わり方について、少しでも解決の糸口を見出し、「明日からも看護を頑張っていけるように!」と思い、気軽に意見を言えるような講義やグループワークを企画しました。また、私たちが難しい・どうしたら良かったのか悩んだ事例などを提供し、他施設ではどう対応しているのか、どう対応するべきかなど意見交換し今後活かすことを考えました。方尾がん看護専門看護師から意思決定支援についての方法をわかりやすく講義してもらい、当病棟で実施した困難事例についての勉強会など報告しました。また前年度から力を入れている、移植前訪問オリエンテーションや今年度始まった移植後フォローアップ外来の取り組みについても報告をすることができました。

医療者は、患者さまから学ぶことが多いと思います。

日頃学んだことをこの機会にまとめて発表でき、意見交換やディスカッションすることで更に学びを深めることができたのではないかと思います。そして研修開催にあたっては、病棟で患者看護にあたるスタッフと研修をサポートするスタッフに分かれて、医師の協力も得て6南スタッフ全員で実施することができました。また、院内の様々な職員の方々から、ご指導・ご支援を頂き無事終了することができました。深く感謝しております。 (6南病棟看護師長 高尾 珠江)



グループワークの様子

救急放射線セミナーが開催されました

平成25年1月28日～2月1日の5日間、本院の研修センター、画像診断センター、救命救急センターにおいて、(独)国立病院機構本部九州ブロック事務所主催による平成24年度診療放射線技師特定技能派遣研修会救急放射線E Rセミナーを開催しました。受講者は、国立病院機構に勤務する九州管内の診療放射線技師6名です。

このセミナーは、救急放射線に関して救急医療に關する基本的な講義と放射線機器およびPACSを利用した臨床技能研修(読影補助研修・救急検査技術研修・救急医療体験研修)、ならびに実技演習を行い、救急医療に携わる診療放射線技師の育成と資質向上を目的としています。国立病院機構において、診療放射線技



参加者と記念撮影



セミナーの様子

師によるこのようなセミナーは他に例を見ない全く新しい企画で、関心度も高く、最終日には所定の課程を修了した受講者は、修了証を手にとり充実感と達成感に浸り満たされていました。セミナーを通して、緊急を要する外傷性疾患あるいは非外傷性疾患に対し、救急検査技術や画像診断を重点的に学び、相互理解を深め包括的指示による診療サポート能力の素地が芽生えてきたように思います。今後の受講者の間断のない活動に期待します。

最後に、セミナーを開催するにあたり、ご教化いただいた病院長の河野文夫先生、副院長の高橋毅先生をはじめ多くの皆様の心温まるご支援、ご協力に深く感謝を申し上げて報告とさせていただきます。

(診療放射線技師長 山本 静成)

JICA研修

「次の10年に向けてのAIDSの予防及び対策」のフォローアップ調査

今回(2013年1月28日～2月2日)のブラジル訪問は、大変思い出深いものとなりました。

熊本で研修した研修員が今は各々のポストで活躍しており、懐かしく再会することができたのも、その一つです。成長した生徒と再会したときのような誇らしい気持ちでした。また現地JICA事務所職員ならびに同行した九州JICAの伊藤さん、そして吉原先生の御尽力で、(私だけ)3日間という短い滞在にもかかわらず、思いもかけず色々な施設を訪問し、国内外で活躍されておられる多くの方々と出会うことができました。特にブラジル保健省HIV/AIDS責任者のDr.グレコは素晴らしい方でした。また結核対策の責任者、UNAIDSの担当者とも意見交換できました。さらにはHIV/AIDS孤児を母親として面倒みているヴィッ



左: ワークショップで本件集コースの意義と歴史を説明

上: HIV/AIDS患者が外来治療のために通う公立保健施設

左: これまでHIV/AIDS孤児の母親として、17名の面倒をみているヴィッキーおばさん



キーおばさんからは、「HIVポジティブだからこそ、人生をよりポジティブに生きるのよ。」と教えられました。その他ブラジルのHIV/AIDSと向き合っている人々から大きなパワーをいただいたような感じがします。

ワークショップも大成功でした。ブラジルが取り組んできた独自のHIV/AIDS対策について、その歴史的な背景や国際的な交渉の過程を学ぶことができました。

これからもレトロウイルス研究の発祥の地ともいえる此処熊本で、HIV/AIDSとHTLV/ATLの両疾患撲滅のための世界レベルでの努力を続けてまいります。(特殊疾病研究室長、国際医療協力室長 武本 重毅)



結核とHIVに取り組む保健省のメンバー

最近のトピックス
ジュースで治す口内炎



歯科口腔外科
片岡 奈々美

最近「口内炎をジュースで治します」というと驚かれることが多いのですが。

口内炎と一口にいても、健康な人でも発症する小さな口内炎から、化学療法による薬剤性口内炎まで様々です。その中で当科に来院される方に多いのは、やはり化学療法の副作用としての口内炎に悩む方で、これらは非常に難治性です(写真1)。副作用による口内炎は、化学療法中の患者の約80%に発症するといわれ、その治療には難儀するところですが、最近はこの口内炎を飲み物で治そうという動きがあります。

これらはアバンド®やグルタミンF®, エレンタール®といったグルタミンを含有する製品で、元来はクローン病など大腸の粘膜潰瘍治療に使用されてきたものです。中でもエレンタール®はグルタミンによる上皮再生修復制御効果、ヒスチジンによる粘膜炎症制御、その他の含有アミノ酸による腸内細胞の吸収促進を作用機序として粘膜潰瘍の治療を行うもので、さらに1回の内服で300kcalの栄養も摂取できるため栄養状態改善にも効果があると考えられています。これが大腸と同じ消化管である口腔粘膜の潰瘍—口内炎にも予防効果が期待できると学会で発表され注目を浴びています。

使用法は簡単です。各製品と規定量のミネラルウォーターを用意し、容器で混ぜてジュースのように飲むだけです(写真2)。これを当科では、造血幹細胞移植前の患者を対象に、コンディショニング前日から一日

1回5日間~7日間内服し、口内炎の発症予防に成果を認めています(表1)。口内炎がジュースで予防できるなんて!と素晴らしく画期的な治療法ですが、各製品に欠点もあって、たとえばアバンド®の場合はコストが高い(一包400円程度)、エレンタール®では非常に独特の臭いがします。消化管粘膜の吸収率上昇のために含有されているアミノ酸の臭いなのですが、かなり強烈で飲む気がなくなってしまうほどです。それでも、飲むだけで口内炎の発症を予防する可能性があるならばと、当院では移植時に術前投与を行っております。

ただし、口内炎予防のためには治療前に歯科受診し、歯磨き指導や虫歯・歯周病治療など一連の口腔ケアを行うことが大前提ですので、副作用による口内炎にお困りの患者様がいらっしゃいましたら、是非歯科口腔外科までご紹介くださいませ。



(写真1)
化学療法中の難治性口内炎



(写真2)
エレンタール写真 写真左下から時計回りにエレンタール80g 粉末 専用フレーバー 専用ボトル ミネラルウォーター

(表1) 造血幹細胞移植患者のエレンタール投与スケジュール例

	day-6	day-5	day-4	day-3	day-2	day-1	day-0
エレンタール開始		前処置開始					移植日
	↓	↓					↓
シクロフォスファミド		○	○	○			★
放射線全身照射				◆	◆	◆	
エレンタール	●	●	●	●	●		

「がん患者医科歯科医療連携事業調印式」が行われました

がん患者の情報を共有し、協力して治療にあたる「熊本県がん患者医科歯科医療連携事業」を平成25年4月から始めることを熊本県歯科医師会と県内3か所のがん拠点病院(国立病院機構熊本医療センター、済生会熊本病院、熊本赤十字病院)との間で合意し、平成25年2月1日、熊本県歯科医師会館にて河野院長が出席し合意書調印式がとり行われました。

「がん患者医科歯科医療連携」は、平成22年度に国立がんセンターと日本歯科医師会の間で始められ、関東地区で2年間の先行事業として行われました。がん患者の周術期あるいは化学療法、放射線治療前からの歯科受診による口腔機能管理、口腔ケアを徹底は、肺炎や口内炎などの合併症を予防または重症化を防ぐ効果が期待でき、がん治療の完遂のための支持療法として重要性が認められてきています。



調印式の様子

現在、熊本県歯科医師会では講習会を実施して「がん連携登録歯科医師」を養成しており、3月までにはその名簿が出来上がることになっています。国立病院機構熊本医療センター連携歯科医師の先生方にも、「がん連携登録歯科医師」になっていただき、がん患者のためにスムーズな連携を行いたいと考えています。(歯科口腔外科部長 中島 健)

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ73回

「手術中における器械出し看護師の血液飛散に関する調査～アイガードを用いて～」

手術室看護師 池本莉沙・徳永雅子・松本尚子・清田喜代美

【目的】手術中における器械出し看護師のアイガード周囲への血液飛散の有無を調べ、血液飛散と手術中の出血量・手術時間の関係を明らかにします。

【研究方法】100症例（無作為）にて、症例毎にフィルム部をルミノール液にて染色し、看護師2名にて目視で飛散個数を測定し、出血量、手術時間は手術記事より情報収集しました。また、飛散した自覚の有無についても調査しました。倫理的配慮として、同意を得られた看護師を対象者とし、データについては個人が特定されないように匿名化（記号化）し管理しました。

【結果】1）飛散の有無：100症例中、67症例に飛散が認められました。

2）飛散個数と出血量：出血量は、1g～5230gでした。飛散あり群となし群を比較すると、有意に飛散あり群の方が出血量が多かったです（ $p < 0.01$ ）。飛散あり群で、出血量100ml以下は38症例（57%）、その中でも「少量」（10g以下）は28症例（42%）。飛散個数と出血量の間には、正の相関関係がありました（ $p < 0.05$ ）。

3）飛散個数と手術時間：15分～746分。血液飛散の有無で飛散あり群となし群を比較すると有意に飛散あり群の方が手術時間が長かったです（ $p < 0.01$ ）。60分以下は、33症例中17症例（52%）で飛散が認められました。16分の手術時間（整形外科の抜釘）でも飛散がありました。また、飛散個数と手術時間の間には、正の相関関係が認められました（ $p < 0.05$ ）。

4）飛散の自覚の有無：1症例しか飛散した自覚がなく、その1症例は実際には飛散がなかったものでした。

【考察】今回、約7割近くが飛散しており、眼粘膜を保護することは必要です。

出血量は、多くなればなるほど、血液飛散する割合も高くなることがわかり、飛散は出血量との関係が深

いことが明らかになりました。

手術時間に関しては、長時間になればなるほど、飛散の割合も増え統計学的に関係性があると認められました。また、出血量が「少量」であっても飛散あり群の42%を占めていたこと、手術時間が16分でも飛散していたことから、出血が少量・手術時間が短時間でも器械出し看護師のアイガードに血液飛散することがわかり、予測される手術時間、出血量に左右されることなく、全症例で防護することが望ましく、自ら血液曝露を予防していくことが必要であると考えます。

また、アイガードに血液飛散していても、器械出し看護師は、術野に集中し周囲からの飛散に気付かないことも考えられます。「飛散がない」と思っているも血液が飛散している危険性を認識すべきです。



写真1
アイガード着用時

表1 飛散あり群と飛散なし群の出血量および手術時間(n=100)

		飛散なし群(n=33)	飛散あり群(n=67)	P値
出血量 (g)	最小値	0	0	0.00177
	最大値	828	5230	
	平均±標準偏差	67.5±160.3	331.9±829.7	
手術時間 (分)	最小値	15	16	0.00586
	最大値	317	746	
	平均±標準偏差	85.6±64.6	145.2±118.8	

院内感染対策研修会開催報告

恒例の九州ブロック院内感染対策研修会が1月16日から18日にかけて2階の研修ホールで開催されました。適切な消毒等感染対策に関する最新の専門知識・技術を習得し、院内の感染管理対策の充実を図ることが本研修の目的で、北は北海道、南は沖縄の国立病院機構施設および熊本市保健所などから総勢60名ほどの参加がありました。

講師陣は院内感染対策に全国の第一線で活躍されている先生方で、講義内容は「エビデンスに基づく院内感染対策」、「抗菌薬の適正使用」、「多剤耐性菌感染症」、「ICTの役割」等々、いずれも院内感染・管理に関する基本的、実務なものでした。最終日の総合討論会では参加者の質問に講師コメンテーターが答えるという形式で行い、講師の先生方より丁寧な説明をいただきました。

終了後のアンケートでは、盛りだくさんの内容で疲れたという感想もありましたが、感染対策に対する基本的～最新の知識が得られ充実した研修であったとの声が大部分でした。



研修会の様子

研修会に対する評価は大変好評で、“感染対策専門スタッフだけでなく一般職員にも聞いて欲しい”、“今後も研修会を続けて欲しい”、“また参加したい”という意見がありました。

最後に、本院からも多くの先生方に講師、座長を引き受けていただき大変お世話になりました。実り多い充実した研修ができたものと、この場を借りて感謝申し上げます。（感染制御室長 高木 一孝）

研修医レポート

歯科臨床研修医

とよべ だいすけ
豊部 大輔



こんにちは。歯科研修医の豊部大輔です。時の流れは早いもので研修期間も残すところあとわずかになりました。この病院で初めて白衣に袖を通したことがまるで昨日のことのように思い出されます。昔中国の偉い人が『少年老い易く学成り難し』と言ったように、毎日患者と接し、治療を行う機会を与えていただきながらも失敗の連続で課題が山積みの状態です。また、大学を卒業して体力が急激に落ちた気がします。病院の階段がきついです。足が痛いです。

医長が速いです。老い易いです。

歯科口腔外科は4人の先生方にローテーションで指導していただきながら診断や処置を学んでいます。当科での臨床研修では抜歯、切開や縫合など外科処置を学ぶだけでなく一般歯科治療も経験することが多く非常に歯科研修施設として魅力的に感じます。また治療だけでなく学会発表をさせていただくことや、セミナーなどで医科の先生方の講演を聴けることも貴重な体験の一つです。歯科医師1年目からこんな充実した環境、中島医長をはじめとしたすばらしい先生方の下で学べることに幸せを感じながら日々努力している次第であります。

当科では歯科治療だけでなくビスホスホネート製剤関連顎骨壊死（BRONJ）の予防、また摂食嚥下の分野にも果敢に取り組んでおります。このような他科との連携した取り組みを経験することで、医科全体の中の歯科としての立場、これからの歯科医師のあり方などを真剣に考えなければならないと痛感してしまいます。

残り研修期間もわずかではありますが、このような環境で勉強できることはこれから先ないと思いつつ出来るだけ多くのことを吸収できるように一日一日を大切に組み立てていきたいと思つています。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお祈り申し上げます。

歯科臨床研修医

たなか しょうこ
田中 翔子



こんにちは。歯科口腔外科研修医の田中翔子です。長崎大学を卒業し、地元である熊本へ帰って参りました。久しぶりの熊本での生活に、最近ようやく慣れてきたところです。

早いもので研修期間もあとわずかとなりました。熊本県荒尾市の田舎でのんびり育った私が、この病院の忙しさについていけるかとても不安でしたが、日々ご指導いただきなんとかここまでやって参りました。医長の中島先生をはじめとする偉大な先生方に教わりながら、とても充実した研修生活を

送っています。研修医の段階で他の研修施設では経験出来ないような口腔外科症例を経験できることや、基本的な歯科処置を任せていただけること、外傷や炎症などの救急症例に恵まれていることなど、1年間の研修でここまで充実している病院は珍しく、改めて恵まれた環境で研修させていただいていることをありがたく思います。

研修の始まった4月より、智歯抜歯をはじめ、外傷、骨折、嚢胞、粘膜疾患、腫瘍など、様々な症例を数多く経験させていただきました。また、糖尿病など全身疾患を持った方や、抗凝固薬、抗血栓薬を服用されている方など、歯科治療を行うにあたり配慮が必要な方の処置を勉強させていただいております。総合病院ということもあり、他科と連携した医療も多く行っております。歯科医師1年目の私にはどれも新しいことばかりで、同時に自分の未熟さを痛感する毎日です。

反省が尽きることはありませんが、残りの研修期間も日々精進して参りたいと思っております。これからも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお祈り致します。

臨床研修医

まつなが あいこ
1年次 **松永 愛子**



こんにちは。研修医1年目の松永愛子と申します。昨年4月に消化器内科からローテーションがスタートし、その後、外科、腎臓内科、麻酔科、呼吸器内科、救命救急部をまわり、あっという間に研修医生活1年がたとうとしています。まだまだわからないことばかりで、勉強の毎日です。

当院での研修1年間をふりかえってみると、各科で様々なことを学ばせて頂きました。特に私は1年を通して学会で発表させていただく機会が多く、とても貴重な経験をさせていただいているなと感じています。人生初の学会発表は、昨年

9月の熊本外科学会でした。初めはスライドの作り方からわからず、先生方に何度もご指導いただきました。何度も何度も練習して本番に臨みましたが、緊張しっぱなしでうまく発表できず、さらには会場からの質問にもうまく答えられず、宮成先生に助けていただき、ほろ苦い学会デビューとなってしまいました。その後も10月に腎臓内科、11月に消化器内科、12月に外科で学会発表させていただきました。学会発表の度に失敗や反省を繰り返していますが、その分多くのことを学ばせて頂いています。また、多くの先生方の発表を見させていただくことで、発表のやり方やスライドの作り方を学ぶことができました。

当院での研修では救急外来を含めた臨床経験だけではなく、私のように学会発表等の学術的な面まで様々なことを経験することができ、とても充実した毎日を送っています。当院での研修も残すところ半分となりましたが、少しでも多くのことを学べるよう、積極的に研修に努めていきたいと思つています。皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと思つていますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお祈りいたします。

■ 研修のご案内 ■

第170回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成25年3月11日（月）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例検討「大腸癌術前でのHBV陽性症例について」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長

村尾 哲哉

4. ミニレクチャー「ブルガダ症候群」

国立病院機構熊本医療センター循環器内科

本多 剛

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL：096-353-6501（代表）FAX：096-325-2519

第124回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成25年3月13日（水）18：30～20：00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「内因性疾患」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 東 輝一郎

国立病院機構熊本医療センター血液内科部長

日高 道弘

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線2630 096-353-3515（直通）

第30回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶平成25年3月16日（土）15：00～17：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：あけぼのクリニック副院長

田中 元子 先生

演題：「カルシウム・リン代謝異常症」

1. 高カルシウム血症の診断と治療
2. ミルク・アルカリ症候群の診断と治療
3. 原発性副甲状腺機能亢進症の外科治療
4. 低カルシウム血症の診断と治療
5. 低Mg血症とカルシウム異常

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 豊永 哲至

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長

富田 正郎

国立病院機構熊本医療センター外科部長

宮成 信友

国立病院機構熊本医療センター内科部長

東 輝一郎

荒尾市民病院代謝・内分泌内科

嶋田 さやか 先生

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501（代表）内線2630 096-353-3515（直通）FAX 096-352-5025（直通）

第138回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜2群＞0.5単位認定〕

日時▶平成25年3月21日（木）19：00～20：45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「低血糖の診断にCGMが有用であったACTH単独欠損症をともなった透析患者の一例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

信岡謙太郎、佐藤良太、橋本章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一郎

2. 「人間ドックにおける食生活診断ツールを用いた栄養指導の取り組みについて」

国立病院機構熊本医療センター栄養科

大野仁美、立石容子、前田摩由、福田彩加、池田かおり、近藤高弘、椿裕子

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

豊永哲至、東輝一郎

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一郎 TEL 096-353-6501（代表）内線5705

2013年 研修日程表 3月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

3月	研修センターホール	研修室	その他
1日(金)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00～9:00 消化器病研究会 C1
4日(月)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 MGH症例検討会 C1 16:00～18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00～18:00 小児科カンファレンス 6西
5日(火)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00～16:30 血液病懇話会 C2 15:00～19:00 外科術前症例検討会 C1
6日(水)	18:00～19:30 第79回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルバス研究会(公開)		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00～18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30～19:00 消化器疾患カンファレンス C1
7日(木)	7:30～8:15 二の丸モーニングセミナー 「クレーム対応」 国立病院機構熊本医療センター-医事専門職 津山 廣志 18:30～20:00 日本臨床細胞学会熊本支部研修会		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50～9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00～19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30～19:00 超音波カンファレンス 消 18:00～19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
8日(金)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00～9:00 消化器病研究会 C1
11日(月)	19:00～20:30 第170回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 MGH症例検討会 C1 16:00～18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00～18:00 小児科カンファレンス 6西
12日(火)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00～16:30 血液病懇話会 C2 15:00～17:30 外科術前症例検討会 C1 19:00～21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1
13日(水)	18:30～20:00 第124回 救急症例検討会 「内因性疾患」	13:00～17:00 糖尿病教室(研2)	7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00～18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30～19:00 消化器疾患カンファレンス C1
14日(木)	7:30～8:15 二の丸モーニングセミナー 「院内暴力と対処法」 国立病院機構熊本医療センター-院内警備統括担当者 陶山 守	18:30～20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)	7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50～9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00～19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30～19:00 超音波カンファレンス 消 18:00～19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
15日(金)		15:30～16:45 肝臓病教室(研2) 「自己免疫性肝疾患について」	7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00～9:00 消化器病研究会 C1
16日(土)	15:00～17:30 第30回 症状・疾患別シリーズ [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 あげほのクリニック副院長 田中 元子 「カルシウム・リン代謝異常症」 1. 高カルシウム血症の診断と治療 国立病院機構熊本医療センター-糖尿病・内分泌内科部長 豊永 哲至 2. ミルク・アルカリ症候群の診断と治療 国立病院機構熊本医療センター-腎臓内科部長 富田 正太郎 3. 原発性副甲状腺機能亢進症の外科治療 国立病院機構熊本医療センター-外科部長 宮成 信友 4. 低カルシウム血症の診断と治療 国立病院機構熊本医療センター-内科部長 東 輝一郎 5. 低Mg血症とカルシウム異常 荒尾市民病院代謝・内分泌内科 嶋田さやか		
18日(月)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 MGH症例検討会 C1 16:00～18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00～18:00 小児科カンファレンス 6西
19日(火)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00～16:30 血液病懇話会 C2 15:00～19:00 外科術前症例検討会 C1
21日(木)	7:30～8:15 二の丸モーニングセミナー 「防災の心構え」 国立病院機構熊本医療センター-救急医療支援担当者 後藤 達広	19:00～20:45 第138回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病学会指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50～9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00～19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30～19:00 超音波カンファレンス 消 18:00～19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
22日(金)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00～9:00 消化器病研究会 C1
23日(土)	14:00～16:00 第244回 滅菌消毒法講座		
25日(月)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 MGH症例検討会 C1 16:00～18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00～18:00 小児科カンファレンス 6西
26日(火)		19:00～21:00 小児科火曜会(研1)	7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00～16:30 血液病懇話会 C2 15:00～19:00 外科術前症例検討会 C1
27日(水)	19:00～20:30 第34回 熊本がんフォーラム 「がんの化学療法副作用」 国立病院機構熊本医療センター-薬剤科 大窪 典子 国立病院機構熊本医療センター-皮膚科医長 牧野 公治		7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00～18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30～19:00 消化器疾患カンファレンス C1
28日(木)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50～9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00～19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30～19:00 超音波カンファレンス 消 18:00～19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
29日(金)			7:45～8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00～8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00～9:00 消化器病研究会 C1

研1～3 2階研修室1～3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター-読影室 手術室

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)